

日本産業教育学会第 56 回大会 プログラム

～ 目次 ～

1、大会日程	2
2、大会要項	3
3、シンポジウム	5
4、若手研究者の集い	6
5、自由研究発表	7
6、専門部会	12
7、見学会	17
8、会場アクセス	18
9、会場案内図	21

1、大会日程

【大会第1日目】大会受付 10月17日（土）12：00～16：00

日	時間	内容
17日（土）	11:30～12:30	理事会（教育学部講義棟 L-102 講義室）
	12:00～	受付開始（教育学部講義棟 1階入口）
	13:00～13:15	会長・実行委員長挨拶（教育学部講義棟 L-101 講義室）
	13:15～16:00	シンポジウム（教育学部講義棟 L-101 講義室）
	16:00～17:00	総会
	17:00～18:00	若手研究者の集い（教育学部講義棟 L-102 講義室）
	18:00～20:00	懇親会（「ふれあい会館」・GENKI 食堂・フルール）

【大会第2日目】大会受付 10月18日（日）9：00～16：30

日	時間	内容
18日（日）	9:00～	受付開始（教育学部講義棟入口）
	9:30～11:50	個人研究発表1（3会場）
	11:50～13:00	昼食
	13:00～14:55	個人研究発表2（2会場）
	15:00～16:30	各部会 （専修学校部会、高校職業教育部会、企業内教育部会）

【大会第3日目】大会受付 10月19日（月）9：30～11：00

日	時間	内容
19日（月）	9:30～11:00	見学会【中野 BC 株式会社】

※見学会参加者は、事前登録した方に限定します。なお見学会は、午前9時までに JR 海南駅に集合してください。

2、大会要項

(1) 期日と会場

【日程】2015年10月17(土)～19日(月)

【会場】和歌山大学・栄谷キャンパス<〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930>

(2) 受付と参加費

【受付】大会第1～2日は、教育学部講義棟1階入口で受付を行います。

【参加費】

	種別	事前登録	当日参加
大会参加費	会員	3,500円	4,000円
	一般	4,000円	4,500円
	院生・学生	2,500円	3,000円
懇親会費	会員・一般	5,000円	
	院生・学生	3,000円	

※懇親会費は当日参加でも同額ですが、人数確定を早めるために、なるべく事前振込をお願いいたします。**10月13日(火)までに事前登録・振込みをお願いいたします。**

本学会会員の皆様で参加希望の方は、郵送したプログラムに同封の振込用紙に、必要事項を記入の上、必要な金額をお振り込み下さい。

日本産業教育学会 HP をご覧の参加希望の方は、大会実行委員会の G-mail : 56taikaiwakayama@gmail.com 宛てに、上記大会参加の種別、懇親会参加の有無、見学会参加の有無をお知らせいただき、以下の大会の口座に必要な金額をお振り込み下さい。

ゆうちょ銀行：加入者名 「日本産業教育学会第56回大会事務局」

口座記号番号：00990-5-307558

(3) 研究発表

- ①個人発表の発表時間は、20分、質疑5分です。共同研究発表の場合は、発表人数によって時間増となっています。また各分科会ともすべての発表・質疑終了後、総括討論を行います。
- ②自由研究発表会場では、経過時間を知らせるために、ベルを鳴らします。15分で1鈴、20分で2鈴、25分で終了の3鈴の合図を鳴らします。
- ③発表辞退者が生じた場合でも、発表時刻及び発表順序の変更は行いません。
- ④研究発表用の資料配布は、各自が必要部数を(40部以上)を持参してください。資料の事前送付などはトラブルのもとになりますのでご遠慮ください。
- ⑤発表者は、開始時刻10分前に会場に入り、プロジェクタへの使用及び動作確認してください。

(4) 理事会

第1日目(10月17日)、11時30分から12時30分まで、教育学部講義棟L-102講義室にて開催いたします。日本産業教育学会理事の方はお集まりください。

(5) 懇親会

第1日目(10月17日)の夕方、18時00から20時00まで「ふれあい会館」(GENKI 食堂・フルール)にて行います。

(6) 昼食

第2日目(10月18日)の昼食につきまして、「ふれあい会館」(GENKI 食堂・フルール)(17日の懇親会会場)が営業しておりますので、ご利用ください。

(7) 大会本部・控え室

大会本部ならびにクローク・休憩室は、L棟105教室です。

(8) 連絡先

日本産業教育学会第56回大会実行委員会事務局

和歌山大学教育学部 佐藤史人研究室

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930

電話：073-457-7325

FAX：073-457-7220 <教育学部総務係気付・佐藤史人宛にしてください。>

E-mail：56taikaiwakayama@gmail.com

3、シンポジウム

10月17日(土) 13時15分～16時
教育学部講義棟・L-101 講義室

【シンポジウムの趣旨】

本学会理事会は、今回、内外、とくにわが国の産業教育・職業教育において具体的な制度的、政策的な話題になっている「高等教育段階における職業教育」に焦点をあてて、この問題にかかわりのある各セクター・ステイクホルダーの関係者によるシンポジウムを企画しました。このテーマは、ここ数年来、あるいはもっと言えば、1970年代中葉に専修学校の誕生(各種学校から専修学校への昇格)がなされた頃からの、古くて新しいテーマでもあります。

諸外国では、専門大学、ポリテクニクス、コミュニティー・カレッジが、ポリテクニクスの大学への吸収など、高等教育段階の職業教育の体系が構築されて数十年、あるいはおよそ100年が経過しています。しかし、わが国では、1961年に非大学である高等専門学校と短期大学が制度化ないし、恒久化され、また1975年に学校教育法第1条の機関ではない専修学校・専門課程が成立して以降、みるべき発展が存在しませんでした。職業教育は短期の専門教育機関、あるいは第1条校の域外にとどめる、という構造が維持されてきました。

他方、1980～90年代以降、直接には職業教育を目的化しないで(学校教育法上の学術の機関としての性格を変えないで)、職業教育目的を追求する様々の新設学部が設置されてきました。「大学が専門学校化している」と言われるに至っています。

このような中で、わが国では、ここ数年来、少なくとも、2008(平成20)年12月の中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会の設置以降、現在(2015年・平成27年)の中央教育審議会の「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の設置に関する特別部会」での議論に至るまで、高等教育段階における職業教育の提供の在り方について後論がなされています。

その際に問題となることは、既存の4年制大学の中で実践的な高等職業教育を行うのか、あるいはそれとは別の制度を構築するのか、別の制度を構想するとしても、それを高等教育として位置づけるためには、目的、付与学位(卒業証明書)、教育課程とうはどうあるべきなのか、が問題になります。前者の考え方をとるなら、看護、福祉、教育、あるいは近年の情報系学部や観光学部などのように、既存の学校教育法上の大学制度内で対応可です。後者のように高等教育制度・大学制度の中で別の制度を構想するというのは、既存のアカデミック志向の4年制大学では、実践的職業教育ニーズやその高度化の要請に対応できないという考えからです。

いずれにせよ、高等教育の各機関、また相応の機関における職業教育の取り組みの評価が問題になります。

幸い、本学会大会を引き受けていただいた和歌山大学には観光学部が2008(平成20)年以来設置されています。その観光系の職業教育に焦点を置きつつ、4年制大学・学部の取り組み、他方、専門学校の取り組み、短期大学における取り組みなど、国の政策的な動向など、それぞれの立場から、高等教育段階における職業教育の制度の在り方について、議論を深めたいと思います。 寺田盛紀(名古屋大学・日本産業教育学会長)

【シンポジウムの参加予定者】(敬称略・順不同)

- ・ 神田孝治(和歌山大学観光学部副学部長・教授)
- ・ 岡本比呂志(学校法人中央情報学園・理事長)
- ・ 寺田盛紀(日本産業教育学会会長・名古屋大学・教授)

司会：佐々木英一(追手門学院大学・教授)

4、若手研究者の集い

10月17日(土) 17時～18時
教育学部講義棟・L-102 講義室

これからの産業教育学研究における課題と方法(2) 産業教育学研究だからこそできることとは

話題提供：植上一希(福岡大学)・坂本学之(宇都宮大学)

コメンテーター：平舘善明(帯広畜産大学)

司会：石嶺ちづる(自由が丘産能短期大学)

若手研究者のためのラウンドテーブル(以下、RT)では、これまで、学校から職業への移行を中心テーマに位置付けて、ディスカッションを行ってきた。研究協議の中で、多様なアクターによる多様な移行支援のあり方や、移行という視点ではなく連携という視点で捉えることなど、様々な議論の観点が示されてきた。その中から、産業教育学研究だからこそ、プレゼンスを発揮できる研究テーマ・領域等があると考えられることが示唆された。

しかしながら、これまでは、ディスカッションのための話題提供のテーマが、中等教育段階を中心とする学校教育に偏っていた。今年度は、その反省に立ち、より多様な視点から産業教育学研究を捉えることを中心的な課題とする。

そのことを踏まえて、坂本学之会員・植上一希会員が、次のようなタイトルで報告する。

「学校教育と企業内訓練の連携史研究の視座：教育と訓練の関係」(坂本)

「職業世界と学校世界を教育を媒介にして接合し、横断的に把握することの意義」(植上)

これらの報告を踏まえて、フロア全体でディスカッションを行う。その際、多様な視点から、産業教育学研究の可能性を検討することとしたい。

報告およびディスカッションを踏まえて、コメンテーターの平舘善明会員が、議論をまとめる。

これらの議論を通して、「産業教育学研究だからこそできること」は何か、が少しでも明らかになり、今後のRTにつなげることができれば幸いである。そのためには、大学院生を中心とする若手会員の参加が不可欠である。多くの若手会員の積極的な参加をお願いしたい。また、残りの大会プログラムの中で、積極的に交流するきっかけとなれば嬉しく思う。

企画者：石嶺ちづる(chizuru.ishimine@gmail.com)

本集いについて、ご不明な点は企画者にお問い合わせください。

5、自由研究発表

【分科会 A】

10月18日（日）9時30分～11時50分
教育学部講義棟・L-102 講義室

司会：西 美江（関西女子短期大学）

9：30～10：20 A-1 座学と実習の一体化を中心とする中等職業教育のカリキュラム開発
－上海市における「実技主導型」モデル－
朴 雪梅（大阪千代田短期大学）
堀内 達夫（大阪千代田短期大学）
井上 真求（京都府立大学）

10：20～10：30 休憩

10：30～10：55 A-2 学校改革の視点からみる中国高等職業教育の教員と教員組織開発
－機関のインタビュー調査に焦点をあてて－
張 琳（九州大学大学院）

10：55～11：20 A-3 東南アジア諸国における職業資格枠組みの展開と課題
谷口 雄治（職業能力開発総合大学校）

11：20～11：50 総括討論

【分科会 B】

10月18日（日）9時30分～11時50分
教育学部講義棟・L-103 講義室

司会：丸山剛史（宇都宮大学）

- 9：30～9：55 B-1 美容師養成制度揺籃期に設立された学校の特徴
—大正2年創立東京女子美髪学校は何をめざしたのか—
倉田 研一（名古屋大学大学院）
- 9：55～10：20 B-2 専門学校の教育組織と教員の職務
瀧本 知加（東海大学）
- 10：20～10：30 休憩
- 10：30～10：55 B-3 日本の国際競争力低下と産業教育の課題
—日本産業の復活・復興のための議論を—
櫻井 博行（(独) 高齢・涉外・求職者支援機）
- 10：55～11：20 B-4 企業内学校/企業系学校研究の意義と可能性について
—非企業系一般公教育研究との差異に着目して—
片山 勝己（放送大学教養学部学生、マツダ株式会社勤務）
- 11：20～11：50 総括討論

【分科会 C】

10月18日（日）9時30分～11時50分
教育学部講義棟・L-104 義室

司会：横尾恒隆（横浜国立大学）

- 9：30～10：20 C-1 北欧における職業教育・訓練の最近の動向（その3）
ースウェーデン・ノルウェーの新たな徒弟訓練調整機関（学校と企業を繋ぐ）の調査を手がかりにー
横山 悦生（名古屋大学）
沼口 博（大東文化大学）
- 10：20～10：30 休憩
- 10：30～10：55 C-2 フィンランド徒弟訓練における能力評価について
新井 吾朗（職業能力開発総合大学校）
- 10：55～11：20 C-3 アメリカのハイスクールにおける「学習プログラム」開発の現状と課題
ーケンタッキー州における Advanced Career プログラムを事例としてー
石嶺 ちづる（自由が丘産能短期大学）
- 11：20～11：50 総括討論

【分科会 D】

10月18日（日）13時00分～14時55分
教育学部講義棟・L-102 義室

司会：伊藤一雄（高野山大学）

- 13：00～13：25 D-1 鈴鹿電気通信學園の設立後
－山田捨録に着目し－
加藤 敬之（愛知県立五条高校・名古屋大学大学院生）
- 13：25～13：50 D-2 1980・90年代の工業高校卒業者のライフヒストリー
－1950～70年代の卒業者と比較して－
山田 宏（一ツ橋大学大学院）
- 13：50～14：00 休憩
- 14：00～14：25 D-3 大湊造船徒弟学校における修業制度の創設
－地元造船業との日本的デュアルシステムの意義－
田中 萬年（元職業能力開発総合大学校）
- 14：25～14：55 総括討論

【分科会 E】

10月18日（日）13時00分～14時55分
教育学部講義棟・L-103 義室

司会：沼口 博（大東文化大学）

- 13：00～13：25 E-1 地域の活性化に向けた中高年女性の起業と能力開発
西口 美津子（福島工業高等専門学校）
- 13：25～13：50 E-2 専門学校中途退学者の実態調査分析
ークラス担任を対象とした3年間の質問紙調査をもとにー
志田 秀史（九州大学大学院人間環境学研究院）
- 13：50～14：00 休憩
- 14：00～14：25 E-3 産業教育に関するICTと知的財産教育の進め（2）
金山 茂雄（拓殖大学）
- 14：25～14：55 総括討論

6、専門部会

10月18日（日）15時00分～16時30分

【専修学校部会】

教育学部講義棟・L-102 義室

1. テーマ「専門学校 IR 卒業生調査による教育改善」

形式：事例発表（会場からの意見や質問を受付ける。）

登壇者：日本電子専門学校 校長 古賀 稔邦

<概要>

専門学校は、職業実践専門課程の発足・普及などにより、以前に増して教育の質の保証や教育改善などへの関心が高まっている。

専門学校（特に職業実践専門課程の認定を受けている課程）の主たる目的は、産業界で活躍する人材の育成である。その教育改善を図るためには、卒業生の産業界での実態を調査・把握することが不可欠である。

専門学校の卒業生調査は、2006年に東京都専修学校各種学校協会と広島大学による首都圏12の専門学校を対象に行ったものや、2012年に「高等教育と学位資格研究会」（研究代表：吉本圭一）による「非大学型高等教育機関の卒業生調査」が知られている。しかし、何れも大学の研究者等の主導による、学術研究的色彩の強いものであった。

一方、大学などの高等教育機関では昨今、**Institutional Research** 活動（以下 **IR**）が盛んに行われ、教育や経営に関するデータの収集とそれをもとにした、エビデンス（根拠）のある学校の改善が図られつつある。第18回日本高等教育学会大会でも多くの事例が報告され、**IR** 専門の担当者や部署を置く大学も増えている。しかし、専門学校における **IR** 活動は活発とはいえない。

こうした背景を受けて、本部会では今年度、工業系情報分野の専門学校3校が、「卒業生調査による教育改善」といった **IR** の観点で取り組んでいる卒業生調査の途中経過を報告する。

3校のうち2校は2012年の「非大学型高等教育機関の卒業生調査」に参加しており、そこで得られた知見の更なる確証を深めるために、調査項目の多くを前回の調査と等しくしている。主な調査項目のカテゴリーは次のものである。

<卒業生調査項目カテゴリー>

1. 出身学科とあなた自身について
2. 在学時の学習・学校生活について
3. 卒業後の進路・就業経験について
4. 現在の仕事について
5. 仕事や生活に必要な能力について
6. これまでの生活や家族について
7. これまでの経験を総合的に振り返って

卒業生年度別コーホートへの調査依頼発送数や回答数・回答率の状況、単純集計結果の抜粋等を、2012年卒業生調査との比較を交えて報告する。

また、今回の卒業生調査では、**Google** が提供している無償のクラウドサービスを活用し

て、Web 調査システムを構築した。小規模の専門学校でも Web を活用して、安価に卒業生調査が行える方法などについても言及する。

2. テーマ「専門学校における教育の質保証～実務型教員の評価と実践を目指す中堅教員研修の方向性～」

形 式: 事例発表(意見交換)

登壇者: 専門学校YICグループ 理事 岡村 慎一

<概 要>

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団(以下TCE財団)では、平成24年度より、文部科学省の教育研修活動費補助事業の一環として、「中堅教員研修カリキュラム」の研究・開発を進めている。新任教員研修カリキュラム修了程度の能力を有する方等を対象に、専修学校教育において、後進の指導等を含め、専修学校教育の振興に尽力することが期待される中核的・専門的な役割を担う中堅教員の育成を目的としたものである。

昨年度は、「専修学校中堅教員研修の運用に向けたカリキュラムの実証及び構築」を研究課題として、これまで開発したカリキュラム及びシラバスの精査・検証等を行い、全7科目により構成されるカリキュラムのうち、『学校経営マネジメント(外部環境理解を含む)』『教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習)』『学級経営・学生対応(学級経営の効果的手法と学生の個別カウンセリング)』の3科目について実証講習会として開催している。

専修学校が、今後も、職業教育を担う教育機関の中心として社会的使命を果たすために、教育及び学校運営の質の保証・向上、教職員の一層の資質向上を図ることは重要な課題であり、TCE財団の教員研修はその礎となるよう活動する。

これまで以上に多くの方々にTCE財団並びに各都道府県協会等が実施する研修にご参加いただき、また、教員研修の意義等についてより一層のご理解を深めていただく為に、教員研修の現状の課題を明確にして改善充実していきたい。

今回の発表では、職業教育に特化した新学校種も十分意識する中、専門学校における教育の質保証に大きく影響がある実務型教員の育成が重要であることはいままでもない。そのための教員研修の評価と実践を目指すために、中堅教員研修の方向性を皆様からの忌憚のない意見を賜りたい。

1. 考え方と構成、事業の目的等

2. 科目一覧・履修時間

3. 受講資格と修了要件

4. 研修実績・評価

5. 現状の課題

1) 専門学校の教員に必要な能力要件の確認

2) 研修の体系化と組織的運用基準、認定方法の整備

3) 研修の成果の評価方法と改善体制

以上

【高校職業教育部会】

教育学部講義棟・L-103 義室

テーマ 「高校職業学科の専門学科の教育内容とそれに関わる教員養成についてー工業科を中心にしてー」

形式:事例発表(意見交換)

登壇者:石田正治(名古屋工業大学)、丸山剛史(宇都宮大学)

<概 要>

本部会では、高校工業科の専門教科内容の変遷を中長期的に概観し、それを担保する工業科教員養成の課題と問題について現実を踏まえ、検討したい。専門教科内容としてその中核として位置付けられてきた「実習」に着目する。今回は、機械科と電気科・電子科を例に、1970年代から2000年代までの実験・実習内容の変遷について調査結果をもとに諸課題を検討する。

また、工業高校現場における若手教員の現状、特に機械実習等での技能教授の問題点を考察する。その上で、教員養成システムの課題を検討する。

報告者 (シンポジスト)

- ・長谷川 雅康 (前鹿児島大学)

「高校工業科の実習教育内容の歴史的変遷と今後の課題ー機械科を中心にー」

- ・荻野 和俊 (大阪工業大学)

「高校工業科の実験・実習内容の変遷と課題ー電気科・電子科を中心にー」(仮)

- ・石田 正治 (名古屋工業大学)

「工業高校の現場にみる若手工業科教員の課題」(仮)

【企業内教育部会】

教育学部講義棟・L-104 義室

・テーマ：「企業内学校の再検討」～丸善石油学院の史実/OB 談話をトリガーとして

・形式：丸善石油学院 OB と当学会員との対話集会

・登壇者(予定)

0. 開会挨拶・司会進行：田中卓也(共栄大学：3分)

1. 前座的発表：

11. 企業内学校とは(部会内発表中止：0分)

参考：「企業内(系)学校研究の意義と可能性について
～非企業系一般公教育研究との差異に着目して」(片山勝己)
を自由研究発表枠で個人発表します。

12. 丸善石油学院とは：片山勝己(マツダ(株)・放送大学：15分)

13. 12に対するショートQ&A (2分)

2. 私の中の丸善石油学院 ～在学中と、卒業後現在まで

21. 丸善石油学院5回生¹ 成本治彦さまの講話(公認会計士：15分)
履歴書の補足説明等

22. 丸善石油学院5、6回生の皆さんによる座談会(20分)
手記の補足説明、学院の思いで談義等

3. 丸善石油学院 OB の皆さんと当学会員との交流対談(質疑応答：30分)

4. 閉会挨拶・部会代表謝辞：沼口博(大東文化大：5分)

・部会企画趣旨：

企業内学校とは新入社員や若手社員を生産現場から切り離し、企業内に設置した学校施設で教育する特殊形態です。1960年ごろの高度経済成長期初期に中卒者対象高校相当の、1988年ごろの高度経済成長終焉期(バブル期)に高卒者対象短大相当の企業内学校がそれぞれ数多く設立されました。しかし、低成長期の現在では企業内学校は非常にマイナーな存在となっています。ただし、一部企業ではそれを復活/増強する動きもみられます。また、格差拡大社会を迎え、1960年頃のように、「優秀で意欲もあるが家庭の経済的事情により高校大学進学が困難となる生徒」が今後増える可能性もあります。これらの点で企業内学校を再検討することは学術的意義が高いと言えます。

今回の大会部会の前半では、そうした企業内学校の意義特徴を学会員から発表します。その後、企業内学校の一例として、1957～1964年まで大阪府箕面市に開設されていた丸善石油(現コスモ石油)の企業内学校「丸善石油学院」の史実について会員から概略説明後、同校OBの皆さん(70歳前後)のお話をお伺いします。同校は和歌山市の南、下津町(現海南市)にあった丸善石油下津製油所の操業要員の育成を主眼に設立されました。今回その地理的ご縁により当学会和歌山大会の本部会にて、特別にお話をお伺いできることになりました。

当時の企業内学校の殆どは「養成工制度」、「技能者養成所」と呼ばれ、工員/技能者の技能に特化した短期養成を行っていました。しかし、丸善石油学院はそれとは一線を画し、美術/音楽教育/全寮制教育他による情操/全人教育にも力をいれていました。また、丸善石油の会社経営状態/方針により、①7年で閉鎖、②5～6回生は同校卒業後に丸善石油(株)に入社できなかった、という特殊事情もあります。よって、同校は当時の企業内学校の平均像ではありません。しかし、同校OBの皆さんの生の声が聞ける貴重な機会であり、当時の世相/教育・経済状況、さらには人々の意識・感覚を知ることができると考えています。

企業内学校は企業内教育の一手段です。ですが、同時に公教育での職業訓練、技術教育に企業が飽き足らないが故に、やむなく企業が設立した学校²であるとも解釈できます。よって、その解析より高校大学さらには

¹ 同校では一般的に呼ばれる5期生を5回生と呼んでいました。

² 現在の企業内学校の殆どは職業能力開発促進法上の認定職業訓練(公共職業訓練に相当すると都道府県知事が認定した事業所内訓練)と区分されています。

専門学校での「あるべき教育」を明らかにすることが可能になると考えています。この意味で、企業内教育部会のイベントではあります。他部会の皆様のご参加も大歓迎します。

(1531 文字)

●企業内教育部会・部会員募集について（ご案内）

本大会部会参加のために、部会入会は不要です。ただし、今後の研究交流を深めるため、当部会員の追加募集を随時受け付けています。皆さんの当部会ご加入を心からお待ちしています。

A. 活動内容：

- A 1. 企業見学会（年1回3月ごろ）
- A 2. メールリストによる情報交換
 - A 2 1. 部会予定の連絡
 - A 2 2. 部会員間の交流・情報交換
- A 3. 部会内スカイプ座談会/サロン（実施調整中）
- A 4. 個人研究取材の部会員帯同（都度調整しています）

B. 部会費： 徴収していません。

C. 他部会との重複参加： 問題ありません

D. 入会申込方法： 片山勝己（k23_ssm@ms14.megaeggne.jp）まで連絡ください。

7、見学会

(1) 見学先

- ・中野 BC 株式会社（〒642-0034 和歌山県海南市藤白 758-45）
<http://www.nakano-group.co.jp/>

「日本庭園のある酒蔵」としてお客様に酒蔵全体を一般公開しております。観光事業部では日本酒や梅酒の製造工程、健康コーナーを通して梅エキスなど機能性食品のご案内や、敷地内にある 3,000 坪の日本庭園のご案内をさせていただきます。酒蔵の香りと空気を肌で感じて頂き、長久邸から四季折々の風情ある日本庭園をお楽しみ頂けます。またギフトショップ「長久庵」では、当社商品の試飲販売も行っており、私達は観光事業を通して、お客様との出会いを大切にしながら中野 BC のファンづくりを目指します。<「中野 BC・Web ページより」>

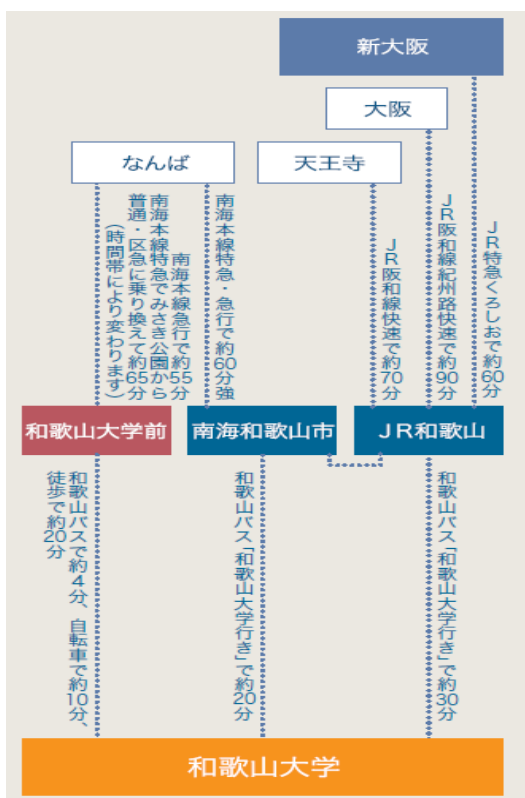
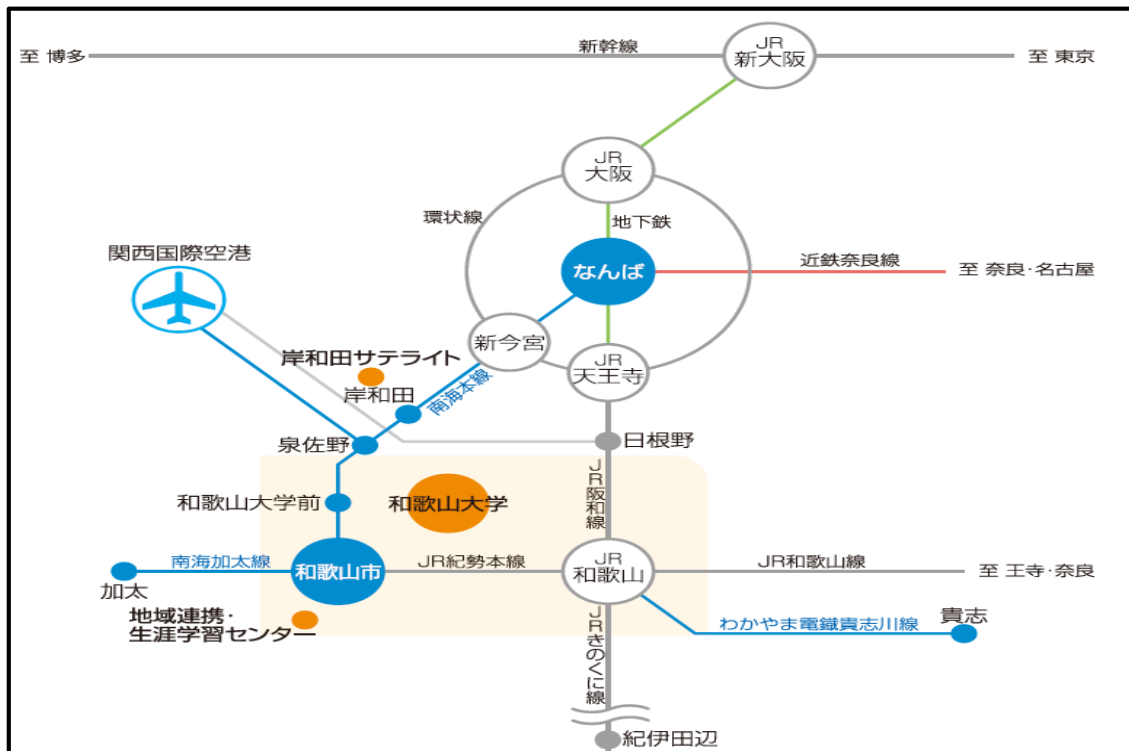
(2) 集合日時・場所

- ・10月19日（月）午前9時30分から11時（予定）
- ・JRきのくに線・海南駅（西出口）に午前9時に集合し見学先までタクシーにて分乗（7分程度）または徒歩15分
- ・JR 海南駅は JR 和歌山駅から 10 分程度・全列車が停車いたします。



8、会場アクセス

(1) 交通アクセス



【新幹線での利用】

東京から和歌山大学までは、東海道新幹線では、
①新大阪駅経由・地下鉄御堂筋線・な

んば駅経由・南海本線にて特急サザンで和歌山
大学前駅下車し、和歌山バスとなります。

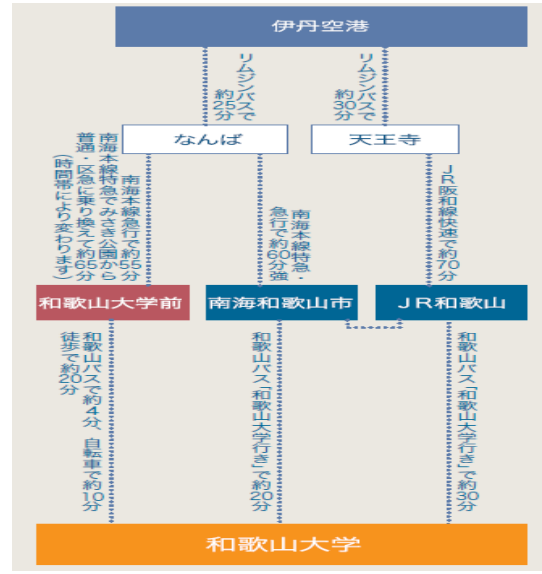
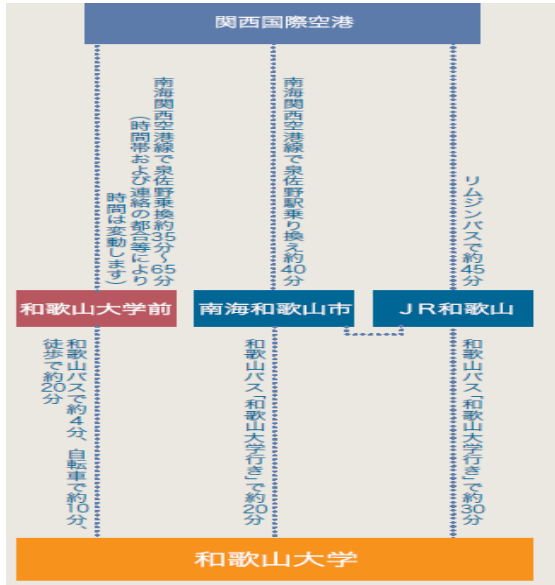
②新大阪駅より特急くろしおにて、JR 和歌山
駅下車し、和歌山バスとなります。

<関西圏から利用>

大阪からは、なんば駅より南海本線にて特急サ
ザンで和歌山大学前駅下車し、和歌山バスとな
ります。または大阪駅・天王寺駅より JR 阪和線
にて特急くろしお、または紀州路快速で JR 和歌山
駅にて下車、和歌山バスとなります。

< 飛行機での利用 >

飛行機では、関西国際空港より南海本線泉佐野駅経由にて和歌山大学前駅下車となります。和歌山大学前駅よりは南海バスにて和歌山大学となります。また、伊丹空港からは、なんば経由・南海・和歌山大学前駅もしくは天王寺駅経由で JR 和歌山駅経由となります。



南海 和歌山大学前駅 - 和歌山大学		連絡バス発車予定時刻表		平成27年3月14日現在																							
行先		系統番号		時																							
				5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23					
平日	南海和歌山大学前駅発			50	05	00	11	10	23	05	18	04	22	19	09	11	13	13	10								
	和歌山大学方面ゆき				19	04	21	48	46	48	46	48	34	41	47	43	43	41									
	(登校)				28	15	31						48		56												
				49	31	42																					
		172	272	273	78	54	43	55																			
土休日	南海和歌山大学前駅発			48	29	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	18	17	17	17							
	和歌山大学方面ゆき				56	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	47	47	46	48							
記事																											
	直 = 78系統 和歌山大学前駅(直行)和歌山大学																										

JR 和歌山駅		④のりば発 和歌山大学ゆきバス発車予定時刻表		平成27年3月14日現在																							
行先		系統番号		時																							
				5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23					
平日	和歌山大学・(ふじと台)			00	00	08	14	28	28	28	58	28	11	20	49	54	27	29									
	市役所前 延時経由				28	11	29	58	58	58		28	42	59	59												
				40	44								58														
土休日	和歌山大学・(ふじと台)			22	55	58			15	54																	
	市役所前 次郎丸経由																										
記事																											
	無印 = 171・172・173系統和歌山大学経由ふじと台東二番丁北ゆき 大 = 72・73系統和歌山大学止め 駅 = 272・273系統和歌山大学経由和歌山大学前駅止め																										

【交通と宿泊先について】

和歌山には、JR 阪和線の「和歌山駅」と南海電鉄の「和歌山市駅」の2つがありますのでご注意ください。

とりわけホテルが集中しているのは、JR「和歌山駅」近辺と「和歌山城」近辺となります。和歌山大学付近・「和歌山大学前駅」には宿泊施設はありません。

<JR 和歌山駅近辺のホテル> 駅前から和歌山大学まで 25 分	グランビア和歌山・ドーミイン和歌山・和歌山アーバンホテル・シティイン和歌山
<和歌山城の近くのホテル> 公園前・市役所前のバス停より和歌山大学までバスで 15 分	ダイワロイネット・和歌山東急イン・ホテルアバローム紀の国・アパホテル和歌山

9、会場案内図

(1) 全体図【和歌山大学・栄谷キャンパス】



※バスの本数が限られているため、P.19 の和歌山バス時刻表をご活用ください。

※タクシーを利用した場合は、入口のゲートを直進して、大会会場の裏手まで、乗り入れることが可能です。

(2) 会場案内図

